

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	コンクエスト	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.470	△RG	0.055	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：コンクエスト

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：インベーター・ネオ

フレアーの幅 インチ

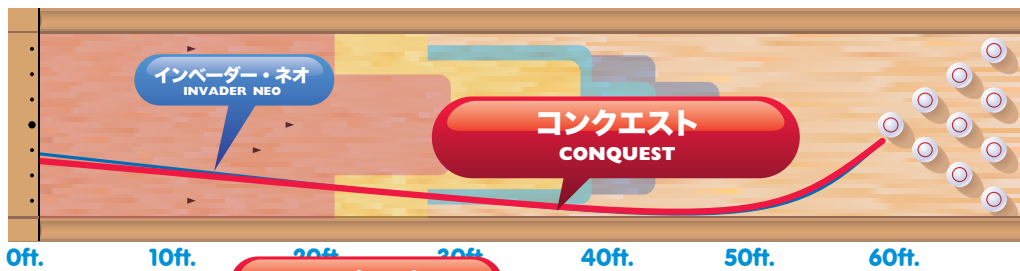
PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

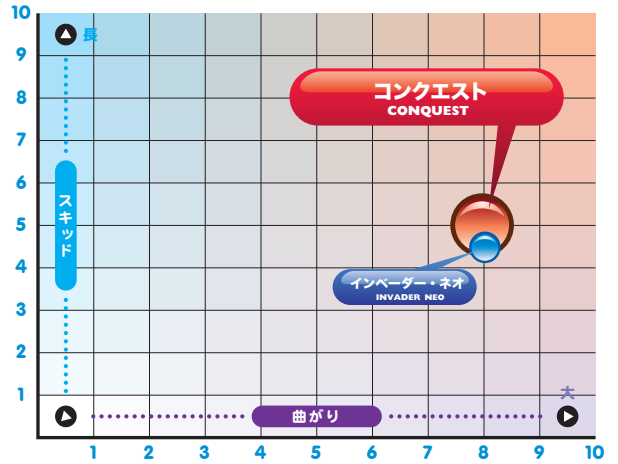
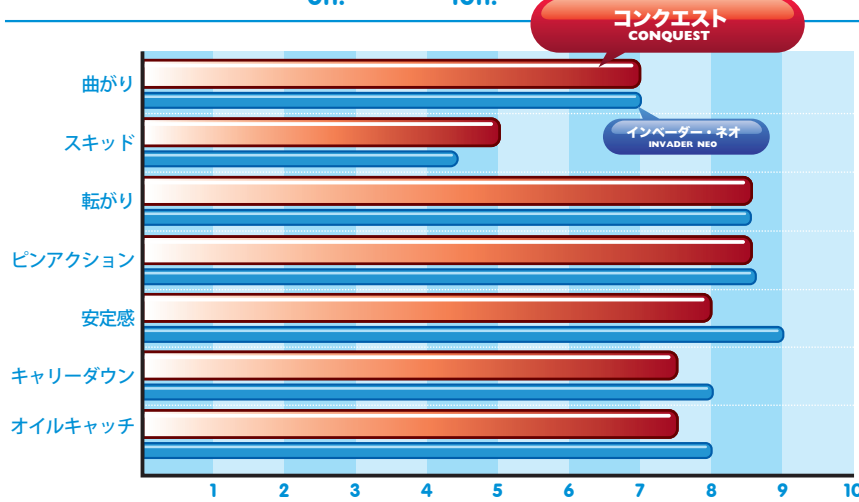
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

「私達がPro-amモデルに求めるものは何なのか」また「ユーザーがPro-amモデルに求めるものとは何なのか」私達ABSボール開発チームは自問自答し、開発を進めてきました。各々ある生産拠点で、ブランドごと特徴が出るCoverstockをどのようにどのような形で「目で見た」Performanceとして表すか。まさに私達はPro-amモデルの本質回帰を求められたのです。「光沢のある状態でもオイルに流されない摩擦を得ながらのスキッド」、「オイルゾーンを抜けてから俊敏なリアクションを得られるドライゾーンでのグリップ力」、「細かくカテゴリー化しなくても幅広い領域をカバーする対応力」これこそが一世を風靡したINVADERから感じられたPro-amモデルに必要な性能。今回ABSボール開発チームがPro-am ケミカルマネージャー(CM)と入念な打ち合わせと、多くのサンプルボールで出来上がったのがこの「CONQUEST」です。

世界に流通しているボールで、多くのユーザーに受け入れられているボールの性能と日本のニーズとを掛け合わせることで日本の市場を一気に「CONQUEST」するのがチームとCMとの狙いです。そこで本質回帰を原点にカラーリングもPro-amモデル初動時のINVADER Multiと同じにしました。カラーリングは同じでも時を経過した分数段Performanceは上がっています。スキッド・キャッチ、バックエンド、ピンアクションに至るまでどれをとっても非の打ち所がない仕上がりだと思えます。Medium heavy領域で良いと評価されているボールとこのCONQUESTを投げ比べてください。先入観だけでなくしっかりと投げ比べることで、「どれに似ていて、どれよりも優れているのか」を投球者自らがPerformanceとして感じて頂けるでしょう。Pro-amモデルはこのCONQUESTから新たな歴史が始まります。

特記事項

Pro-amモデル最新作はABSボール開発チームとPro-amケミカルマネージャーとの至極の逸品。Coverstockの特性を活かし、ユーザーを唸らせるパフォーマンスでお届けします。